

2022年3月30日

鹿児島大学病院 脳神経外科 で
先端巨大症の治療を受けた患者さんへ
(生命科学・医学系研究に関する情報)

鹿児島大学病院脳神経外科では、以下の生命科学・医学系研究を実施しております。生命科学・医学系研究とは、従来の臨床研究、疫学研究、ヒトゲノム・遺伝子解析研究を含み、人を対象として国民の健康の保持増進、患者さんの傷病からの回復、生活の質の向上に資する知識を得る等を目的とする研究のことです。この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録等をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】

先端巨大症における遅延性術後低ナトリウム血症の発症因子に関する研究

【研究の目的】

下垂体病変に対する経蝶形骨洞手術(TSS)の術後は、患者さまの一部で低ナトリウム血症を発症することが知られており、入院期間延長などの問題点があります。先端巨大症の術後も同様に低ナトリウム血症を発症しますが、他の下垂体腫瘍と異なる体組成(水分バランスなど)を生じる可能性があります。本研究を通して先端巨大症患者における術後低ナトリウム血症の予測因子を明らかにし、入院期間短縮等の利益が得られる可能性があります。

【研究の方法】

2007年から2023年の間に経蝶形骨洞的手術(TSS)を施行された先端

巨大症患者を対象に、電子カルテ上に記録された、術前、術後1日目～退院までの電解質、体重、尿量、負荷試験結果を収集し、低ナトリウム血症発症の有無で2群に分類し、両群の臨床情報を比較します。

【研究期間】

承認日 ～ 2024年3月31日

【対象となる患者さん】

2007年から2023年までに、鹿児島大学病院脳神経外科で経蝶形骨洞的手術を受けた先端巨大症の患者さんを対象にしています。

【試料や診療録（カルテ）から利用する情報】

電子カルテ上に記録された周術期の電解質、体重、尿量および負荷試験の結果を利用します。

これらの情報は研究責任者・研究分担者が利用し、研究責任者（脳神経外科 藤尾信吾）が責任を持って管理を行います。

【個人情報の取り扱いについて】

研究で使用する診療情報は、患者さんの氏名や生年月日など、患者さんを直接特定できる個人情報を匿名化します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科脳神経外科学分野の研究費（用途特定寄附金）で実施します。この研究は、研究者が独自に計画し、実施します。企業等の第三者機関からこの研究のための資金提供や労務提供は受けていませんので、利害の衝突は発生しません。

【参加を希望しない患者さんへ】

この研究に参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。あなたに関するデータを削除します。ただし、学術発表などすでに公開された後のデータなど、患者さんまたはご家族からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があります。

【問い合わせ先】

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番地1号

鹿児島大学病院 脳・神経センター 脳神経外科

助教 藤尾信吾

電話 099-275-5375 FAX 099-265-4041